

睦月



真心より奉仕に努めます。

しろくまだより

《第7号》

＊発行 社会福祉法人 白熊会
特別養護老人ホーム

白熊園

TEL 092-831-8562

〒814-0104

福岡市城南区別府7-5-45

＊発行責任者

施設長 佐藤栄一

<http://hakuyuu.or.jp/>



施設長から
新年のご挨拶と
お屠蘇をご利用者様皆様へ。



謹賀新年



年末のもちつき大会！

ご利用者様にも一緒にお餅をついてもらい、つきたてのお餅を皆で一緒に
食べました☆今年は嚥下能力が低下された方でもお餅を味わってもらえるよう
「ソフト餅」を作りました!!「美味しい!!」と大好評☆

ソフト餅はプリンのような食感で箸でも切れます!!味もお餅の味ですよ☆





収穫祭☆

《行事報告》

10月5日(水) 喫茶バイキング
10月1日(土) 開園6周年記念日
11月2日(水) 収穫祭
11月23日(水) 家族懇談会
12月19日～25日 ゆず湯週間
12月22日(木) クリスマス会・デザートセレク
12月27日(火) 餅つき大会

《行事予定》

1月28日(土) 新春お楽しみ会
(落語、民謡・三味線演奏など)



クリスマス会☆



看護師からのお知らせ

空気も乾燥しており、福岡市内でも風邪やインフルエンザまた、ノロウイルス等の感染症が発生しております。当園でも感染症対策に職員一丸となって力を入れて取り組んでおりますが、入居者の皆様の健康状態に応じ、面会制限等させて頂く場合もございますのでご協力のほどよろしくお願い申し上げます。



いのちのすがたを見つめて『在宅ホスピス物語』

嘱託医(にのさかクリニック院長 ニノ坂保喜)

みなさんは、いのちの終わりを迎えるときに、そばに誰にいてほしいのか、誰に看取ってもらいたいのか、考えたことがありますか？人は誰でも、いつかいのちの終わりを迎えます。日本人の寿命が世界一になっても、八十歳、九十歳、あるいは百歳になっても、いつかは・・・その時、誰にそばにいてほしいと思いますか？

信頼できる医師や看護師に囲まれて、痛みや苦しみを取ってもらうことも大切ですね。私たち医師や看護師の仕事は、そのような痛みや苦しみを和らげることが第一です。病気が治癒可能であれば、多少の苦しさはあっても我慢して、手術や放射線や抗がん剤治療を受けることを、多くの人が望むでしょう。でも、それが治癒不可能になったらどうでしょう。でも、それは病気が加齢に向き合う私たちにいずれ訪れる事態なのです。評論家の米沢慧さんは、それを「還りのいのち」と呼び、それに対応する医療を「還りの医療」と呼びました。お分かりのように、治癒を目的とした医療は「往きの医療」と呼べますね。治癒不可能となった状態の方を、苦しみを和らげながら自然な死に導く在宅ホスピスは、還りの医療と実践する中で、還りのいのちを、在宅ホスピスという還りの医療を実践する中で、還りのいのちを最期まで生きる方たちとその家族から、いろんなことを学びました。抗がん剤との決別という体験を聞き書きで残した男性、「患者は死ぬまで生きてほしい」と叫んで点滴の管を引きちぎった女性、幼い子どもを見送った両親の思い・・・死を見つめながらそれぞれの方のいのちのすがたがあります。いのちを大切にすること、還りのいのちのちにも目を向けること、死を見つめながら生きることではないでしょうか。

このたび青海社より『在宅ホスピス物語』を出版しました。在宅で最期まで過ごす生き生きとした人生の物語をどうぞお読みください。

